

【短報】東京都府中市におけるコマルケシゲンゴロウと水生甲虫2種の記録

筆者は、東京都府中市本町3丁目にある東京農工大学農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター・FM本町（以下、FM本町）の水田において、従来、東京都から記録がないと思われるコマルケシゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）を採集しているので報告する。また、東京都から記録の少ないと思われるコツブゲンゴロウ（コツブゲンゴロウ科）およびマダラコガシラミズムシ（コガシラミズムシ科）も採集しているのであわせて報告する。

以下、採集地はすべて東京都府中市本町3丁目7-7 FM本町で、水田の中をタモ網で掬いとりをしたときに得られた。

1. コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859 (図1)

3exs., 21. VIII. 2013, 筆者採集・保管; 15exs., 27. VIII. 2013, 筆者確認; 9exs., 28. VIII. 2013, 筆者採集・保管; 14exs., 6. IX. 2013, 筆者確認。

森・北山 (2002) や東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト (2014) では東京都における記録がないとされていることから、東京都初記録と思われる。近似種のコマルケシゲンゴロウについては東京都内の記録があるが、体型や♂交尾器の形状から本種であると判断した。FM本町では2013年には多数がみられたが、2014年にはみられなかった。

2. コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873

2exs., 17. VII. 2013, 筆者採集・保管; 1ex., 23. VII. 2013, 筆者確認; 1ex., 31. VII. 2013, 筆者採集・保管; 3exs., 21. VIII. 2013, 筆者採集・保管; 12exs., 27. VIII. 2013, 筆者確認; 28exs., 6. IX. 2013, 筆者確認。

東京都における記録は、皇居における記録（野村ほか, 2000）や、赤坂御用池における記録（野村ほか, 2005）



図1. 東京都府中市産のコマルケシゲンゴロウ。

などがあるが、多くはない。FM本町では2013年には多数がみられたが、2014年にはみられなかった。

3. マダラコガシラミズムシ *Haliphus sharpi* Wehncke, 1880

1ex., 28. V. 2013, 筆者採集・保管; 1ex., 18. VI. 2014, 筆者採集・保管; 1ex., 19. VI. 2014, 筆者採集・保管。

従来、東京都から記録されてはなかったが、岡田ほか (2013) によって2011年および2013年に明治神宮において1個体ずつ記録されている。しかし、東京都の市町村部における記録は初めてと思われる。FM本町では個体数は少ないが、2013年、2014年と2年にわたりみられた。

FM本町には、住宅街に囲まれた中に約2.5haの水田がある。従来、生息が確認されていた水生甲虫は、チビゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、トゲバゴマフガムシ、キイロヒラタガムシの4種のみであり、今回記録された3種についてはこれまで一度も採集されることがなかった。FM本町の水田は、いわゆる乾田であり、稲作をしていない10月から4月にかけては水が完全に無い状態が続く。そのため、これら3種は周辺に別の発生地があり、飛来してきた可能性が高い。別の場所から移入してきた可能性も考えられるが、FM本町を管理している東京農工大学農学部の本林講師によると最近他所から水田内に土壌を移入した経歴はないとのことである。

末筆ながら、本報告を記すにあたりお世話になった東京農工大学農学部の本林講師に謝辞を申し上げる。

引用文献

- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版, 東京.
- 野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明, 2000. 皇居の甲虫相. 国立科学博物館専報, (36): 185-255.
- 野村周平・平野幸彦, 2005. 赤坂御用地ならびに常盤松御用邸の甲虫相. 国立科学博物館専報, (39): 183-223.
- 岡田圭司・平野幸彦・新里達也, 2013. 明治神宮の甲虫類, 283-330. 鎮座百年記念 第二次明治神宮境内総合調査報告書, 510 pp.
- 東京都本土部昆虫目録プロジェクト, 2014. 東京都本土部昆虫目録. <http://homepage3.nifty.com/TKM/index.html> (2014年10月6日閲覧)

(上田茂生 184-0005 東京都小金井市桜町1-8-23 東京農工大学大学院農学府修士課程生物生産科学専攻)